



小菊は、家庭用仏花として年間を通じ堅調な需要のある品目です。また、露地栽培が可能

# 農業技術 プリズム

で、他の花きと比べて労働時間が少なく、比較的所得率の高いことから、本県における小菊の

## 小菊「長崎AYC1」

### 手間掛からない オリジナル品種

1では、7月から12月まで長期出荷できる産地を育成するため、本県の気候に合った長崎オリジナル小菊品種の育成に取り組んでいます。

今回育成した「長崎AYC1」写真IIは6月中旬に定植すると、10月下旬までに開花する秋小菊です。花色は黄で、花径は4.5～5.5センチの半八重咲きの花形をしています。先端から30センチ以下の部位から発生する側枝が少なく、出荷調製や花束加工の際に手間が掛からないことが特徴です。

今年度は長崎市、佐世保市、諫早市、杵岐市で試作され、来年度から本格栽培が始まる予定です。

作付面積はこの5年間で大幅に増加し、2015年度には35.8センチまで拡大しています（花き生産出荷統計から）。当センタ

（農林技術開発センター農産園芸研究部門主任研究員 池森恵子）